

いきいきまさきっこ12月号

松前町立松前幼稚園 令和5年12月発行

「いよいよ生活発表会～それぞれのドラマに心を寄せて～」

お家の人に見てもらおうことを楽しみに、子どもたちが取り組んできた生活発表会が、いよいよ目前となりました。

つき組は、今年は『おほしがひかる』と『きらきら星』を合奏します。クラスの人数が多くないため、ほとんどの楽器が1人での演奏となりますが、ピアノだけは「どうしてもやりたい！」と希望する子が多く、3～4人で演奏することになりました。今年度はコロナ禍が落ち着いてきていたので、進級当初からいつでもピアノに触れられるようにし、子どもたちに親しみがあり取り組みやすい『きらきら星』の楽譜を用意して、興味をもったときにいつでも挑戦できるようにしていました。つき組の子どもたちは兄弟がいる子も多く憧れがあったのか、興味をもって吹いてみようとする姿が多く見られ、中には1学期のうちに『きらきら星』を覚えて弾けるようになっている子もいました。



2学期になり、いろいろな楽器に触れられるよう保育室に用意すると、子どもたちは興味をもった楽器を思い思いに弾いたり叩いたりし、自分の手で音を出す面白さや、友達やピアノの伴奏に合わせて演奏する心地よさを感じながら楽しんでいました。十分いろいろな楽器に触れることを楽しんだところで、さあいよいよ発表会で何の楽器を演奏するか希望を聞き、取り組んでいくことにしました。Aくんは初めウッドブロックを希望して取り組んでいましたが、『おほしがひかる』ではピアノに挑戦したいと言うので、それなら一緒に頑張ろうと曲によって楽器を変えてやってみることにしました。

初めは意気込んで挑戦してみていたAくんでしたが、自分1人では何とか弾けても、ピアノの伴奏や友達と合わせて演奏しようとなかなか上手いきません。だんだん自信がなくなってきた「やっぱりピアノやめたい…」と言うこともありましたが、私は、何でも器用にできるAくんだからこそ、すぐには上手くできないことにも諦めずに挑戦し、達成感を味わってほしいと思い、Aくんを励まし続けました。上手くできたときには一緒に喜び、難しいところは繰り返し一緒に練習に取り組みました。

そして先週、練習の成果が出てきて、ついにピアノの伴奏や友達の音にAくんも合わせて弾けるようになってきました。すると、Aくんから「何だか楽しくなってきた。もっとやりたい！」という言葉が。それを聞いて私も本当に嬉しくなりました。その後Aくんはお弁当後に自分でホールからピアノを取って来て自主練習をしたり、迎えに来たお母さんにも聞いてもらったりして、ますます意欲的に取り組むようになっていきました。諦めずに取り組んでできるようになった経験が、今後のいろいろな場面で、自分を信じて頑張る力になっていってくれればと願っています。

このように、生活発表会の演目一つひとつ、子ども一人ひとりに、それぞれ取り組んできた過程、ドラマがあります。生活発表会当日は何が起こるか分かりません。もしかしたら緊張で上手くできなかつたりハプニングが起こったりするかもしれません。当日、舞台の上での頑張りはもちろん、それまでの過程にも心を寄せ、子どもさんの『今』しか見られない姿をしっかりと目に焼き付けて、そして終わった後はたくさん褒めて認めてもらえたら嬉しいなと思います。どうぞ、温かい目で見守り、たくさんの拍手で子どもたちを励ましてくださいますよう、お願いします。

保育のねらい

…12月はこんなふうにご覧になりたいな…

3歳児

- 友達と一緒にいろいろな自分なりの表現を楽しもう。

- ・ 自分の思ったことや感じたことを言葉や仕草で伝えながら、歌ったり踊ったり役になりきったりして遊ぼう。
- ・ 風の冷たさや自然の変化に気付いたり、冬の生活の仕方を知ったりしよう。

4歳児

- 友達と共通のイメージをもって、表現する楽しさを味わおう。

- ・ 気の合う友達と意思を出し合ったり、ルールを確認し合ったりしながら遊びを楽しもう。
- ・ 身近な自然を感じたり、生活に取り入れたりして遊ぼう。

5歳児

- 互いのよさを生かしながら、共通の目的に向かって力を合わせよう。

- ・ 仲間の中で自分らしく表現する楽しさを味わおう。
- ・ 気温や風の冷たさ、植物や作物の変化に気づき、自然の美しさや不思議さを感じよう。